

牛の尿からできた消臭剤で



第3回は、北見市に本社を置く環境ダイゼン・窪之内賢社長(71)。公害のもとである牛の尿から作った無添加の消臭剤

「環境ダイゼン」
 本社 北見市端野町三区438-7。2006年設立。資本金1000万円。売上高は1億8000万円(2014年1月決算)。主な事業は「パイオ活性水」

「パイオ活性水」
 改良剤の効果を着目した商品の開発、製造。「きえ〜る」のほか「土壌改良剤」「土いきかえる」も人気。

北の経営者に聞く、第3弾は「きえ〜る」の環境ダイゼン

21世紀の「プロコンテニア」
 青山千景がリーダー直撃

「自分で飲んで安全性確認」
 環境ダイゼンは社名の通り、環境に配慮した商品を提供しています。困っていることを解消がモットー。例えば主力商品の「きえ〜る」は牛の尿を乳酸菌や酵母菌などで分解したもの。川で牛の尿による汚染が深刻化したときに生み出しました。公害のもとだったものを使い、臭いも問題も消し去ったわけですか。

「牛の尿でなぜ消えるのですか。」
 「乳酸菌などの善玉菌が生産したパイオ活性水は、花や香水など良いにおいには反応せず、アンモニアなど悪臭だけを消すんです。誤飲しても問題ないのでペット愛好家や介護業界の人に愛用されています。」
 「どのようなきっかけで商品に?」

「ホームセンターで店長を務めていたとき、酪農家が園芸用の液体堆肥としてどうだろうかと、原料を持ってきた。生ゴミの腐敗臭や犬のオシッコのにおいを消せるものがないとお叱りを受けて困っていた頃だった。」

「液体堆肥と消臭、違うもの感じますか。」
 「その原液には悪玉菌を減らし善玉菌を増やす性質があった。悪臭を消すには悪玉菌を減らす必要がある。消臭剤としての可能性を考えました。」

「手応えは?」
 「大手メーカーで腐敗臭が消えるものがなかった。このおかげで、確信。本当に安全なのか、なめたり飲んだり身をもって実験し問題もなかった。」

震災で自社商品に誇り

「商品が東北でも評判ですが、きっかけは?」
 「テレビを見て知った。東日本大震災。津波で塩害などにあった土に使用してほしいと思い、商品を送る準備を開始した。しかし交通網はマヒし庁舎は流されてしまった。資本金として札幌赤十字社を通じて届けられた。手や髪、服といった臭いが全て取れたと言ってくれた。うれしかった。日本赤十字社から、被災地に消臭液が欲しいと連絡があった。」

「緊急事態ですね。」
 「北見市の看護師が、救済に入った被災地で悪臭に悩まされた。効果的な消臭剤がないと、きえ〜るのことを話していただくことがきっかけだった。風呂に入れない、手も洗えない状況の中、支援物資として札幌赤十字社が入った。実際に現地へ行くことも目も痛くなるような強烈な臭いだった。作業関係者がそのままの服でコンビニに行く、悪臭で嫌な顔をされた。」

香り高い北見へ



窪之内 賢 (くぼの うち・さとし) 1943年(昭18)11月9日、北見市生まれ。62年北見北斗卒業後、北見東急百貨店に入社。百貨店閉店に伴い、87年常務取締役店長としてホームセンターダイゼン入社。2006年、環境ダイゼンを独立開業した。

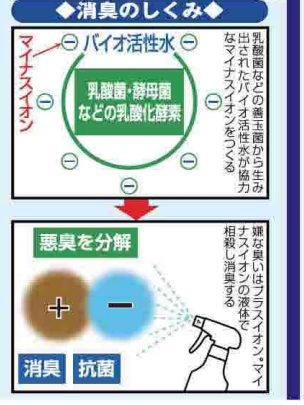
青山 千景 (あおやま・ちかげ) 1986年(昭61)1月17日、札幌生まれ。北海道大学卒業。中学時代からタレントとして活動し00年CMデビュー。2007年度ミスさっぽろ。TV「旅」旅コン北海道にリポーターとして出演中。姉の夕香と接客マナー講師として企業研修も務めるなどマルチタレントとして活躍している。

「室内で飼っているペットの臭い、消臭で困っている人へアドバイスはありますか。」
 「昭初頃まで北見は良い香りのハッカで盛り上がった(生産量は世界の70%を占めていた)が21世紀はにおいを消すきえ〜るで町おこししたい。嫌な臭いのない香り高い北見にしたいね。」

化粧品になる可能性も
 「何か新しい取り組みは?」
 「現在、トヨタ推薦で中古車販売店に5万台分導入してもらっている。クーラーやペットの臭いが気にならなくなり、安全であることが認められてきた。これから化粧品になる可能性もあるかもしれないし夢は膨らむばかりです。」
 「消臭で困っている人へアドバイスはありますか?」
 「昭初頃まで北見は良い香りのハッカで盛り上がった(生産量は世界の70%を占めていた)が21世紀はにおいを消すきえ〜るで町おこししたい。嫌な臭いのない香り高い北見にしたいね。」



座右の銘「感謝」を手紙に記した窪之内社長



し、往ら校大西要性がカネ